

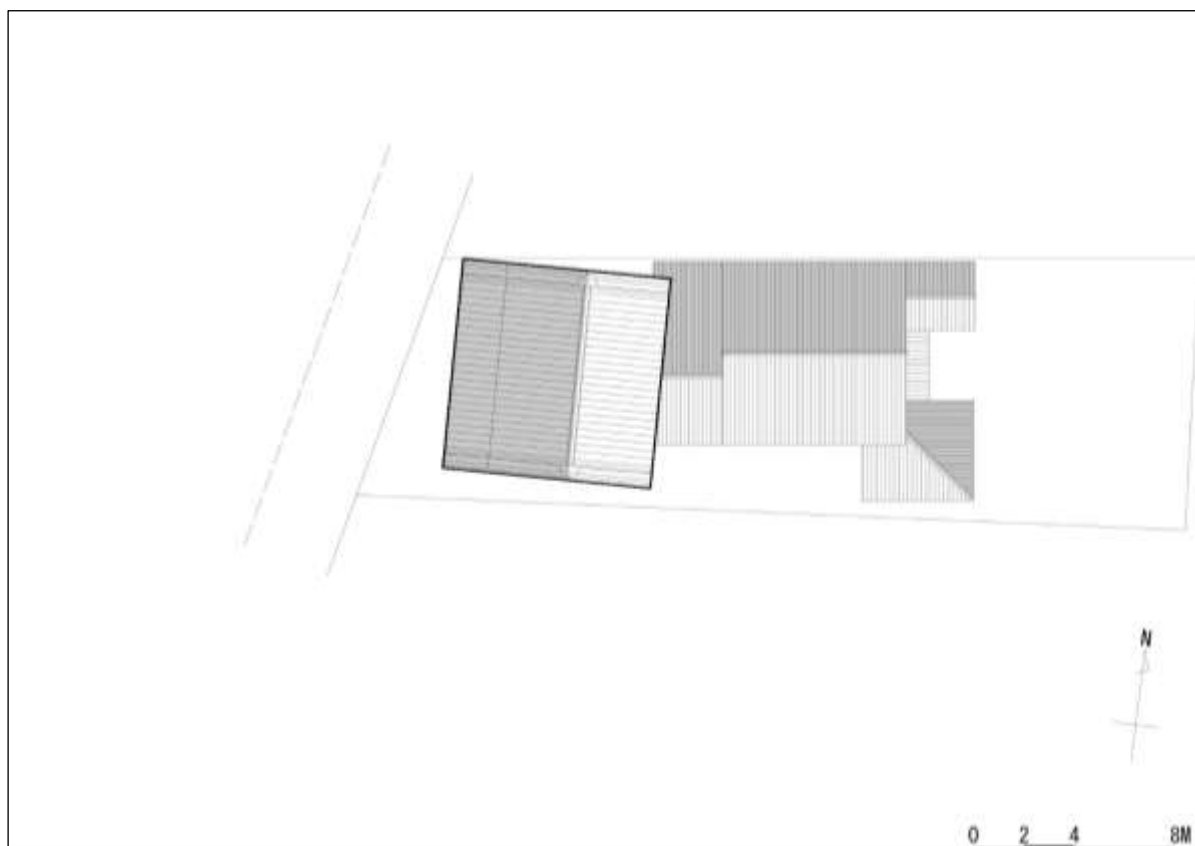
歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	9	名称	蔵の資料館「古久磯提灯店見世蔵」 とちぎ歌麿館【古久磯提灯店見世蔵】
指定年月日	令和2年3月11日	所在地	栃木市万町435番地2
所有者氏名	栃木市長 大川秀子	所有者住所	栃木市万町9番25号
建築年代 (根拠)	弘化2年(1845)建築 (墨書)	規模・構造	木造 瓦葺 2階建
特徴等	<p>大通りの東側、通りに面してやや斜めに建てられた見世蔵と、その奥に続く住居部分からなる。見世蔵は、小屋梁(中引梁)に残された墨書によって弘化2年(1845)の上棟であることが知られるが、建築年代が判明した蔵造りの店舗としては、栃木でも2番目の古さである。</p> <p>「古久磯」は、もと銅鉄商の「古久磯本店」(望月家)から独立したもので、明治末期にはすでに「古久磯支店」として、万町で提灯店を営んでいたことが知られる。その後、大正年間に現在の建物(もと菓子製造業)に移り近年まで商売を続けていたが、現在は市が取得し「とちぎ歌麿館」として美術作品等の簡易展示が行われている。</p> <p>見世蔵は、切妻・平入で前面に約5尺の下屋庇を設けている。店舗内は当時の状態を比較的良好に保っている。下屋庇先には引戸(土戸)の溝跡があり、2階外壁筋が揚戸構えとなる。背面の戸口は中央に両引戸(土戸)が残り、当初は短い渡り廊下で住居部分に接続していたといわれる。帳場はやや短縮されているが、以前は揚戸の先まで伸びていたと考えられる。店舗2階は2室の座敷が通りに面して並び、南側の10畳に床の間が付く。2階軒先は出桁造、窓は引戸(土戸)で、黒漆喰塗の外壁は9寸余りの厚みをもつ。</p>		
形成する歴史的風致 (指定理由)	<p>商家町栃木にみる歴史的風致(栃木の山車祭りにみる歴史的風致) 山車祭りの舞台である歴史的な町並みを構成する建造物であり、歴史的建造物が建ち並ぶ町並みを背景に山車が巡行する。</p>		
備考	県指定文化財(平成6年(1994)1月28日)		





蔵の資料館「古久磯提灯店見世蔵」とちぎ歌麿館 案内図



配置図